

おニューなデニムとスニーカーで、バラ色のウイークエンドを!

OCEANS

履けば履くほど「次」が欲しくなる、この奥深き世界よ

やっぱりスニーカーは やめられない!

NO SNEAKERS,
NO LIFE.

ブランド、色、シルエット……キミは何をどうはく?

37.5歳の「気分なデニム」 パーフェクトレビュー

2019年春号

フィーリング重視で遊べ!

アクセ勝りの“着る”腕時計

- ◇ OC世代に捧げる5つのスニーカー偏愛物語
- ◇ 各社が誇る先端テクノロジー搭載モデルの実力
- ◇ 「自然ニ都会」対応型シューズ最強説
- ◇ スニーカーの着こなし、成功の絶対法則とは?
- ◇ 「履くだけでスタイルアップ!」の真相

4

2019





色の变化で知る、時の流れ

オーロラから着想を得た2枚のグラデーションディスク。それぞれが回転し、2つの色の变化によって時刻を表すというなんとも不思議な仕組み。その色の経過を眺めるだけでも楽しくなること間違いなし。ちなみに写真は10時10分頃。腕時計「セレステローズ/ゴールド」SS(ピンクゴールドIP加工)ケース、40mm径、クォーツ。2万2038円/ジーク(エックスカントリー)、ニット2万2000円、パンツ2万1000円/ともにRHC(RHC ロンハーマン)

UNIQUE
 “着る”自分がいちばん楽しい
 作り手のユニークな発想



詩的に表現するワンハンド

24時間で針が1周するワンハンド機構を、太陽(12時位置)と月(6時位置)を思わせる2つのサークルで詩的に表現。針が真上を向けば正午を、真下なら午前0時を指す。経年変化が楽しめるイタリア製オールドレザーストラップを採用している点も大きな特徴だ。「デイ&ナイト」SS(ピンクゴールドIP加工)ケース、41mm径、クォーツ。2万4000円/タックス(マーサイインターナショナル)

あえて視認性を投げ捨てるアイロニー

時計針の代わりに2つの四角い物体で時間を表示する。しかもジャカードを模した文字盤のグリッドパターンが、時とともに変化。このわかり難さこそが、アイロニカルなブランドの真骨頂だ。時間に通われないことの大切さを問う。「ジャカード」SS(ブラックIP加工)ケース、39mm径、クォーツ。2万4000円/ナヴァ(ビーオーエス)



触ればわかる、そのありがたみ

立体的なインデックスと2つのボールのおかげで、見ずとも触って時刻を判別。ケースサイドのホールが時を、文字盤のホールが分だ。視覚障害者をもって生まれた1本だが、その運かいコンセプトは、すべての人を幸せにするはず。「さわる時計 ブラッドリー」チタンケース、40mm径、クォーツ。3万7500円/イーワン(イーワン・ジャパン)



ロボ? いえ、インダストリアルな時計!

まるでロボットのような風体だが、れっきとした時計である。横に並んだ3つのデジタルメモリが、それぞれ左から1時間単位、10分単位、1分単位で積み上がっていく。ドイツのインダストリアルデザイナー「アルマン・エマミ氏」のアイデアだ。「A24」SSケース、34mm幅、クォーツ。2万1000円/ネオログ(マーサイインターナショナル)



時計の概念を覆す文字の羅列

一見不規則に見えるアルファベットの羅列だが、ケース右側のボタンを押すと特定の文字が点灯。それを読み解けば、現在時間がわかるという寸法だ。さらにケース四隅のドットが1分単位で光るので、写真の場合は現在2時13分を示している。「W35」SS(ローズゴールドPVD加工)ケース、縦35×横35mm、クォーツ。12万5000円/クワッツ(スイスプライムフランス)



計算し尽くされたディテールを知らずとも……

「バウハウス最後の巨匠」と呼ばれたマックス・ビル氏のデザインを今に伝える。視認性を追求したインデックスのフォントやふっくら盛り上がったドーム型風防など、ディテールにこだわりを見せるが、何よりも見た目の深さがツボ。「マックス・ビル エディション 2018」SSケース、38mm径、クォーツ。8万9000円 / ユンハンス(ヨーロッパ仕様)

アイコンックな「太陽」が輝くアートケイ

正午の太陽を意味する12時位置の大きなドットが、どことんアイコンック。バウハウスの後継者、ネイサン・ジョージ・ホーフィット氏による1947年の原画をベースとした1本であり、シンプルをアートにまで昇華させた「作品」と呼ぶべきもの。「ミュージアム クラシック」SSケース、40mm径、クォーツ。6万5000円 / モバード(栄光時計)



飾らないデザインで静かに主張する

お馴染みのブランドロゴとバーインデックスのみのプレーンな文字盤。ポリッシュケースとルビーレッドのストラップが織り成す絶妙なコントラスト。スウェーデンブランドらしい過剰に飾らないデザインが、時計全体から漂う。薄型時計なので、着け心地もいい感じ。「クラシックロゼリン」SSケース、40mm径、クォーツ。2万2000円 / ダニエル・ウェリントン(ダニエル・ウェリントン 原産)



ノーマルだけど、ノーマルじゃない

存在感のあるゴールドカラー以外はノーマルな面持ち。と見せかけ、上層の文字盤に穿いた時計代わりの窓が下層の数字を覗かせる。2層の文字盤を構える。時計の既成概念を、鮮やかに裏切つてみせた1本。「エクストラノーマル グランデ」SS(イエローゴールドIP加工)ケース、38mm径、クォーツ。2万7500円 / ノーマル

SIMPLE

シンプル・イズ・ザ・ベスト!
無駄はない、でも意味はある



蘇らせる煌びやかなイタリアンデザイン

ローズゴールド×ブラックのコンビネーションが、華やかさをストレートに表現する自動巻きモデル。イメージソースとなったのは、煌びやかなイタリアを象徴する1960年代、かの地におお脚地を置くブランドらしい、ファッション的なアプローチに酔いしれた。「1960 オートマチック」SS(ローズゴールドIP加工)ケース、42mm径、自動巻き。7万7000円 / ロックマン(ロックマン ジャパン)



静かなデザインに潜む、作り手の美学

プロダクトデザイナー、岩崎一郎氏が手掛けるミニマル時計のニューカラー。これはモーニング・グレイと名付けられ、朝もやをイメージしたもの。透明感のあるグレイはありそうでなかった絶妙な塩梅で、実に大人っぽいじゃないか。腕時計「エフ」SSケース、39mm径、クォーツ。3万2000円 / イツモイ ミヤケ ウォッチ(セイコーウォッチ)、ニト3万4000円 / ジョーン ストレー(リーミルス エージエンシー)、デニム2万4000円 / RHC(RHC ロンハーマン)